5章　総合問題5

問題

【1】

解答

（1）　People〔They〕sometimes say

（2）　we seem to be living in an age of discontent

（3）　ⓒ　be〔is〕　ⓓ　is　　（4）　ⓔ　on　　ⓗ　for

（5）　ⓕ　less　　ⓖ　more　　（6）　many other

（7）　judging from，are〔have〕，our ancestors

（8）　on the decrease　　（9）　most people

解説

（1）　People〔They〕sometimes say の他に I sometimes hear〔I have sometimes heard；I am sometimes told〕でもよい。

また，It is sometimes reported も可であるが，一般に，It is said は形式ばった言い方で新聞の報道文や論文に用いられる。口語英語では It says in papers …も多い。

（2）「一般には this is a pleasure-seeking age と言われているが，私はそうは思わない」というのがこの文の主旨である。

すぐ後に I doubt whether it（ ⓓ ）a pleasure-finding age という文章が出てくるが，これは a pleasure-seeking age から予測される結果に対する筆者の疑問であって，まだ筆者の結論的見解ではない。

文章の最後の方の we seem to be living in an age of discontent が筆者の見解である。この箇所を次のように書き換えれば，筆者の主観的見解であることが明らかになる。

We seem to be living in an age of discontent.

≒ It seems *to me* that we are living in an age of discontent.

≒ It seems *to me* that this is an age of discontent.

（3）

ⓒ　現代英語においては is もしばしば用いられるのだが，この筆者の論理展開から考えれば，「現代は快楽追求の時代だ」という一般的な意見を承認していないのであるから，伝統文法の立場から言えば，I don't know if it *be* true or not. のように仮定法現在を用いるべきである。

cf. If he *is* old, he *is* still strong and active.〔現在の事実の承認〕

ⓓ　ここは逆に，自分の見解が不確実だという意識があるなら be でもよいところなのだが，最後まで読めばわかる通り，ここは確信を持った疑念であり，I doubt whether …は，seem と同様に断言を緩和する（understate）ために用いたにすぎない。

「断言の緩和」（understatement）について補足すると，日本語の場合，はっきり断定できない時に「僕は…と思う。」とか「…のようだ。」という言葉を意見に付け加え

る。もちろん，場合によっては「断言を緩和」するために，自分では確信していても「…と思う。」という言葉をつけ加えることがある。英語で言えば，I think とか，I'm afraid とか，It seems などである。では，英語の場合，これらの表現は，どんな意図のもとに加えられるのだろうか。日本語の場合と同じだろうか。まったく違うとは言えないのだが，幾分違う場合が多い。というのは，英国人は，もともと感情を表面に出すことを好まないから，言葉も控え目になるのだが，この「感情を表面に出すことを好まない」理由が，日本人の場合と違うのである。彼らの場合には，目立ちたくない，言い換えるならば，他人から eccentric な人物と思われたくないという理由に基づくのである。したがって，自説を述べる際には，どんなに確信を持っていても，なんらかの型で「断言を緩和」しようと心掛けるのである。この点を充分に承知しておかないと，彼らの真意がくみ取れないことになるから注意しなければならない。つまり，I think；I believe；seem；apparently（一見して）；I suppose；I am afraid などがついているからといって，彼らが不確定，不確実なことを述べていると思ったら大間違いなのである。例えば，"Can you come to dine with us?" という問いに，"No, I'm afraid I can't." と答えたら決して来ないし，"It is possible that I may go." とか "It is not impossible that I may go." と答えたら，必ず来るのである。

（4）

ⓔ on the whole は「全体的に見て；概して」の意で as a whole と区別しておくこと。
on the whole ＝ taking everything into consideration
as a whole ＝ as a single unit and not as separate parts；in general
が基本。

ⓗ opportunity の次には for または of がくるが，of の場合は同格関係である。
○ここでは不定詞代用の for を入れる。
cf. many opportunities *for saying*（＝ to say）

（5） poverty も wealth も不可算名詞であるから，many；few；fewer；fewest などは用いられない。したがって much；more；most；little；less；least のどれかになる。
全体の内容から判断して，poverty には little；less；least の中のどれか，wealth には much；more；most のどれかがつく。
「今は，概して貧乏な人が少なく，金持ちが多い。」と単純に考えれば There is *little* poverty and *much* wealth. でもよさそうだ。
ところが，英語ではそうはいかない，筆者は常に今と昔を比較して考えていることに注意してほしい。比較級の使い方は実に難しいのでよく覚えておくこと。
次の英文は学生の自由英作文の一部。元東大講師の翻訳家ジョン・ベスター氏は１箇所修正した。どこだろうか。
Japan lies north and south. In northern districts, there is much snow in winter, and people in those districts have a cold winter. But in southern areas, there is no snow even in winter, and people in those districts have a warm winter.（解答は【6】の解説の最後を見よ）

（6） 正解は many other（things）だが，many ＋比較級＋複数名詞の変形と考えるとよい。

（7） ここは，I do not judge from ～ that …の構文，つまり，that …以下が judge の目的であることがわかれば簡単。
なお，content は名詞にも形容詞にも用いられる。
○ contént ＝ a state of satisfaction

（8） rather A than B「B よりもむしろ A」において A と B に等価関係のものがくること（*Ex.* He is *rather* clever *than* honest.）を思い出し，さらに otherwise があるから on the increase の反対の意味の表現 on the *decrease* を思い浮かべよう。
○ otherwise ＝ in another or a different way
cf. I would rather stay home than *otherwise*.
（どちらかと言えば家にいたい。）

（9） これは subject，general，complaint といった多義語の意味がつかめているかどうかを試すもの。（注参照）

全訳

現代は快楽追求の時代だとしばしば言われる。現代が快楽追求の時代かどうかわからないが，快楽発見の時代かどうかということは私には信じかねる。現代人は，今までの人々よりも多くの点で非常に有利な状況にあるように思われている。全体的に，貧乏は少なくなり，富裕が増えている。享楽のための機会も多くなっていると思われている。映画はあるし，自動車があるし，その他現在享楽の手段と考えられているもので我々の祖先が持っていなかったものが数多くある。しかし私は，新聞で読むことから判断して，現代の方が多くの満足があるとは思えない。実際のところ，我々は不満の時代に生きているように思う。不満は減るどころか，むしろ増大していく勢いにあり，それが世間の人々がこぼしている１つの問題でもある。

注

ℓ.1 ◇ It は that 以下を指す。
◇ this（age）is a pleasure-seeking age
◇ whether it be a pleasure-seeking age or not … 副詞節

ℓ.2 ◇ doubt ＝ feel uncertain about
◇ whether it is a pleasure-finding age … 名詞節

ℓ.3 ◇ way ＝ respect
◇ over ＝ higher or more than（quality）
◇ predecessor [prédəsèsər] ＝ the person who had your job before you

ℓ.5 ◇ opportunity ＝ a situation in which it is possible for you to do something that you want to do
◇ moving picture ＝（archaic）movie
◇ motor-car ＝ automobile [ɔ́:təmoʊbì:l]

ℓ.6 ◇ means ＝ an action or system by which a result is achieved
◇ our ancestors ＝ the people from whom we are descended
◇ possess ＝ own

ℓ.7 ◇ indeed「はっきり言って」〔前言の確認・補足〕

ℓ. 8 ◇ discontent = dissatisfaction with *one*'s circumstances ; lack of contentment
◇ on the increase = becoming great, more common, or more frequent :「次第に増加して」

ℓ. 9 ◇ subject = the thing that is being discussed
◇ general = affecting or concerning all or most people
◇ complaint = a statement in which you express your dissatisfaction with a particular situation

【2】

ポイント

「読書」と「テレビ視聴」という２つの行為の性質について，両者を対比させて論じた英文である。第１段落で挙げられた the pace of each experience（読書とテレビ視聴にかける速度), the relative control a person has over that pace（その速度に対して持つ相対的な支配力）という２点に関して，全体を通して論が展開されている。「読書」と「テレビ視聴」のそれぞれの行為がどのような特徴を持っているのか，きちんと読み取れただろうか。

解答

（1） 本を読むこととテレビを見ることを，それぞれどのような速さで行うかということ。
（2） **b**
（3） 読む物が感動的であれば，しばらくの間，本を置くことができる
（4） 「**全訳**」の下線部参照。
（5） 見逃したり誤解したりしている状態。
（6） **b**　（7） program　（8） sights and sounds
（9） **a**　（10） **d**　（11） that　（12） **c**

解説

（1） each experience（それぞれの体験）とあるが，下線部より前に挙げられている複数の体験とは reading（読書）と viewing television（テレビ視聴）であり, pace とは「速度」のことである。したがって,「これら２つのそれぞれの行為を行う時のペース」と考えればよい。

（2） 空所の前後の内容を読み取り，空所に入る語句を推測しよう。直前には,「それぞれの体験の速度が，受け取る題材の使い方に影響を及ぼすかもしれない」とあり，空所の後には,「それぞれの体験の速度が，それが生活の他の面にどれくらい立ち入ってくるかを決定するかもしれない」とある。前者に対して，後者は別の側面を紹介することで説明を加えているので，空所に入れるのに適しているのは **b** In addition（加えて；さらにその上）である。空所の前後は相反する内容ではないため，**d** In contrast（対照的に）や **e** Instead（それよりむしろ）は不適。空所の前後に因果関係はないし，空所の後で結論を述べているということもないので，**a** In conclusion（結論として）も不適。**c** In every way（あらゆる点で）は文脈に合わない。

（3） 下線を含む文の構造を確認しておこう。

If what she reads is moving,

she can ┌ put down the book 〈for a few moments〉
　　V_1　　O_1
　　and
　　└ cope with her emotions 〈without fear of losing anything〉.
　　V_2　　O_2

she can は cope with ～ 以下にもつながっており，全体の一部として訳すと不自然な表現になってしまうので，and 以下は考えずに訳してよいだろう。

○ what she reads「彼女が読むもの」この what は先行詞を含む関係代名詞で，the thing which の意。この what she reads が if 節の主語である。

○ put down ～「～を下に置く」ここでは「本を読むのを途中でやめてかたわらに置く」というような意味。

○ moving「感動的な」

○ for a few moments「しばらくの間」

（4） ○ turn back「後戻りする」ここでは「前に戻って見直す」ということ。

○ if「たとえ…だとしても」ここでは even if と同じ意味で‘譲歩’を表す。文脈から考えて，この if を「もし…」と訳すのはふさわしくない。

○ a word の a は「１つの」と訳しても間違いではないが，特にこれと断定しないで漠然とある物を指す名詞に付けて用いられていると考えるとよい。この意味の時は，日本語には訳さないことが多い。

○ phrase「言い回し；表現」

（5） so は 先行する語句の代用として用いられる。下線部の so は remain C（C のままである）の C（補語）に当たる部分の代用で，名詞・形容詞・分詞などがくる。ここからさかのぼって適当な語句を探すと lost or misunderstood とあり，remains lost or misunderstood と補うとうまくつながる。テレビの視聴に関して lost（失われる）とは，見逃したり聞き逃したりすること，misunderstood とは内容を誤解することである。日本語の答えとして「見逃しや誤解」などと答えるのはぎこちないので，文末は体言止めで「～こと〔状態〕」のようにまとめるとよい。

（6） 空所の前の第３段落では，テレビ視聴の速度が速いためにテレビ視聴者ができないことが挙げられている。これを受けて第４段落を読んでいくと，第２文以降で，テレビは映像の動きが速すぎるために，受け取った情報を自分なりに処理できない，という内容が述べられている。第３段落に引き続き，第４段落でも，テレビ視聴と視聴者の情報処理について否定的な見解が述べられているので，空所のある第１文も同様の内容になると推測する。したがって，この文脈に合うのは **b** の Nor（～も，やはりない）である。Nor は前文の内容を受けて「～もまた…しない」の意で，‘nor ＋（助）動詞＋主語’の語順になる。空所の後ろは can the television viewer … と‘助動詞＋主語’の語順になっているため，語順の上からも Nor が適当。**a** の No more（もうこれ以上…ない）は文脈に合わない。**c** は no sooner ～ than …（～するとすぐに…する），**e** は not only ～ but（also）…（～だけではなく…も）という形で用いられるが，そ

れぞれ呼応する than や but（also）の表現がないし，文脈上合わない。また，文の構造上，**d** の Nothing という名詞はここには置けない。

（7） show は多義語だが，ここでは「番組」の意味。これと同じ意味の単語は第３段落第２，４文，第５段落空所①の直前に出てくる program である。she is under the power of the imagination of the show's creators とは，テレビの視聴者は番組の内容を自分の心理的要求に合うように取り入れることができず，すべては番組制作者にかかっているということ。

（8） 下線部を含む文中の fast enough for ～ to take them in に注目。‘形容詞〔副詞〕+ enough to …’の形で「…するのに足りるだけ〔十分に〕～」という意味で，不定詞の意味上の主語は for ～ の形で表す。take in ～ は「～を取り入れる」の意なので，直訳すると「目と耳が them を取り入れるのに足りるだけ速く」となるが，和訳する場合は「**全訳**」のように自然な日本語になるよう工夫が必要。さて，下線部の them は目と耳によって取り入れられる物であるが，下線部より前の部分から them 指す名詞の複数形を探していく。すると，直前の文にある sights and sounds（映像と音声）が them に当てはまるとわかる。さらに下線部を含む文の主語 They も同じく sights and sounds を指すと考えられる。

（9） 名詞の occasion は「（ある事が起きる）時」の意味であるから，その他動詞は「～を起こさせる〔もたらす〕」の意味だと見当をつけてほしい。これと意味が近いのは **a** cause である。**c** happen は自動詞なので受動態にはならず，除外できる。**b** chance は他動詞として「～をいちかばちか思い切ってやってみる」の意味があるが，文脈上合わない。**d** meet と **e** share も文脈上合わない。

（10） velocity の意味を知っている場合は問題ないが，この意味を知らない場合は前後の内容から意味を推測する。the irreversible direction and relentless velocity of the television experience は，テレビ視聴の特徴を述べた部分で，ここが第３・４段落の内容を要約したものであることを見抜きたい。irreversible direction（後戻りできないこと）の他に挙げられたテレビ視聴の特徴は，とても速い速度で展開していくということ。したがって，velocity は「速さ」という意味だとわかる。

（11） この長い文の主語は it だが，この it が the thread や第４段落の the television set を指すと考えると意味が通じない。この it は空所以下を受ける形式主語か，あるいは強調構文という可能性がある。it を形式主語だと考えると，it の内容である真主語に当たる部分が見当たらない。空所の後ろを見ると主語が欠けているので，空所に入る語がこの節内の主語であると考えられる。つまり，この場合は形式主語構文ではなく，this need を強調する強調構文。したがって，空所には that を入れるとよい。ここで，強調構文であれば it is と that がなくても英文が成立することを思い出しておきたい。この英文では this need ～ not only limits the workings … という SVO の文が成立しているとわかる。空所を含む文の構造は次の通り。

it is this need,

< occasioned by the [irreversible direction and relentless velocity] of the television experience >,

that not only limits the workings of the viewer's imagination,
but also causes television to intrude into human affairs
〈far more than reading experiences can ever do〉.

(12) 空所の前では，テレビを見ている時に誰かが尋ねてきたとしても，話の筋を見失わないためには，テレビを中断してはいけないと述べられている。それと比較して，読書の場合について述べたのが空所の部分である。各選択肢の意味は次の通り。**a**「本はもちろん，読むのをやめて後で続きを読むことができるが，挨拶を中断することになる。」**b**「会話が中断されないならば，本はもちろん，読むのをやめることも脇へ置いておくこともできない。」**c**「本はもちろん，脇へ置いておくことができる。おそらく少し残念に思うことはあるかもしれないが，話の筋が永久にわからなくなったと感じることは決してない。」**d**「本はもちろん，容易に脇へ置いておくことができ，読者は非常に不利益を被る。」第２段落の最後にあるように，読書の場合は中断しても何も失われないのだから，空所に入れるのに適しているのは **c** である。**b** と，**d** の後半は第２段落にある読書の利点に関する記述と矛盾する。ここで言う中断は挨拶のためのものであるから，**a** は筋が通らない文になっている。

全訳

読書とテレビを見ることの比較は，それぞれの体験の速度と，人がその速度に対して持つ相対的な支配力という点で行われるかもしれない。それというのも，その速度は人がそれぞれの体験で受け取った題材を使う方法に影響するかもしれないからだ。さらに，それぞれの体験の速度は，それが人の生活の他の側面にどれだけ立ち入るかを決定するかもしれない。

読書の速度は明らかに，完全に読者次第である。能力や好みに合わせて，いくらゆっくり読んでも，いくら速く読んでもよい。どこかが理解できなかったら，中断して読み返してもよいし，調べて明らかにしてから読み続けてもよい。読者は書かれていることが易しかったりまったく面白くない時には速度を上げることができるし，難しかったり心が奪われるような時は速度を落とすこともできる。読む物が感動的であれば，しばらくの間，本を置いて，何物も失う恐れなく，自分の感情に対処することができる。

テレビ体験の速度は視聴者がコントロールすることはできない。テレビのスイッチを入れたり切ったりするのは視聴者なので，その始まりと終わりだけが視聴者の自由になる。視聴者は面白い番組の速度を下げることも，退屈な番組の速度を上げることもできない。ある単語，あるいは言い回しが理解できなくても，テレビを見ている人は後戻りすることはできない。番組は無情にも先へ進み，見逃したり誤解したりしたところは，そのままになる。

テレビの視聴者は受け取る題材を，読む題材でいつもしているように，自分の特定の心理的要求に合う形に容易に変えることもできない。映像は動きが速すぎる。視聴者は自分の想像力を使って，テレビ上に描かれた人々や出来事に，自分の生活の中の人間関係やもめごと

を理解したり解決したりする助けになるであろう，個人的意味づけをすることができない。視聴者は番組制作者の想像力の支配下にある。テレビ体験では，目と耳は映像と音声の即時性に圧倒される。映像と音声は，新しい画像と音声に素早く変わる前に，ちょうど目と耳が取り込むことができるほどの速さで，テレビ本体から飛び出す。それは，「話の筋を見失わない」ためなのだ。

話の筋を見失わないため…視聴者の想像力の働きを制限するだけでなく，読書体験には決してできないほどに，テレビが人のすることに立ち入るようにさせるのは，テレビ体験が後戻りできず，無慈悲なほどに速いために起こる，この欲求である。もし，テレビを見ている間に，友人か親戚か子供か，あるいはひょっとしたら，しばらく会わなかった誰かが部屋に入ってきたとしても，人はテレビを見続けなくてはならない。さもないと，話の筋を見失ってしまう。挨拶を交わすのは後回しにしなくてはいけない。というのも，テレビ番組は待ってくれないからだ。言うまでもなく，本だったらもちろんかたわらに置いておくことができる。少し残念に思うことはあるかもしれないが，話の筋が永久にわからなくなったと感じることは決してない。

注

ℓ. 2 ◇ relative control：「**全訳**」では「相対的な支配力」と訳したが，「互いに支配し合う程度」ということ。
ℓ. 4 ◇ intrude upon ～「～に立ち入る」
ℓ. 8 ◇ elucidation「解明」
ℓ. 10 ◇ enthralling「夢中にさせる」
ℓ. 14 ◇ dreary「退屈な」
ℓ. 15 ◇ inexorably「無情に」
ℓ. 17 ◇ transform ～ into …「～を…に変える〔変換する〕」
ℓ. 19 ◇ invest ～ with …「～に…を授ける」
ℓ. 20 ◇ portray ～「～を描く」
ℓ. 23 ◇ overwhelm ～「～を圧倒する」
◇ immediacy「即時性」
◇ flash「急速に通過する」
ℓ. 25 ◇ thread「筋道；糸」
ℓ. 26 ◇ irreversible「逆行できない」*cf.* reversible（元に戻せる）
ℓ. 27 ◇ relentless「情け容赦のない」

【3】

解答

（1） three hundreds furnitures → three hundred pieces〔items〕of furniture
（2） in one and half hour → in one and a half hours
（3） ninety-years-old painter → a ninety-year-old painter
（4） a great fun → great fun
（5） a point of advice → a piece〔bit；word〕of advice

解説

（1）「その店は1日につき300以上の家具を販売する。」hundred などが複数形になるのは hundreds of ～（何百もの～）の場合のみ。furniture，information，advice，equipment，baggage などは複数形にせず，a piece of，two pieces of をつけて数を表す。

（2）「少なくとも1人の登山者は，1時間半後に山の頂上に着かねばならない。」「1.5」は one and a half と言い，複数扱い。

（3）「木村さんは，90歳の画家だが，40年間喘息を患ってきた。」例えば「彼は3歳だ。」が He is three years old. = He is a three-year-old boy. となるようにハイフンでつないで形容詞を作る場合には複数形の名詞は単数になる。また，painter は普通名詞なので冠詞を忘れないように。

（4）「たとえ最下位でも，お気に入りのチームを応援するのはとても楽しい。」fun は不可算名詞。*Ex.* Let's have fun!（楽しもう！）

（5）「あなたの一人娘に必要なのは，お金ではなくちょっとした忠告だと気がつくべきだ。」advice は不可算名詞。数える際には a piece〔bit；word〕of ～をつける。

【4】

解答

（1） Little *did*〔*does*〕he know how foolish he was.

（2） Right in the middle *of* the town is a large park with many sports facilities.

（3） What *is*〔*was*〕it that you would like to discuss in particular?

（4） What *do*〔*did*〕you think happened after you had left the office?

（5） What soap is *to* the body, laughter is to the soul.

（6） Happy is the person *who* has succeeded in making the most of his talents.

（7） *Not* until we were outside did it dawn on me that we were still in our pajamas.

（8） Hardly had my eyes closed *when* a dim telepathic image began to appear.

（9） My mother loved me very much and what is more important *is* that she trusted me.

（10） It was because she had left her smartphone behind somewhere that *she* looked pale.

解説

（1）「どれほど愚かなのか彼はちっともわからなかった。」
little は否定の副詞であるから文頭に出るとその後は倒置形になる。

（2）「街のまさに中央には，多くのスポーツ施設を備えた大きな公園がある。」
街が公園というのはややおかしい。MVS の形にする。

（3）「話したいこととは，特に何だい？」
What (is it that) you would like to discuss? と考える。is it that はいわゆる強調構文。

（4）「あなたが事務所を出た後に何が起きたと思う？」
Yes／No で答えられない質問であるから What（do you think）happened? となる。

（5）「笑いと心の関係は，石鹸と身体との関係と同じである。」
○ A is to B what C is to D. = What C is to D, A is to B.「AとBとの関係はCとD

との関係と同じである。」

（6）「自分の才能を遺憾なく発揮できた人は幸せだ。」
CVS の形となる。

（7）「外に出て初めて，私たちはまだパジャマ姿であることに気がついた。」
It didn't dawn on me that we were still in our pajamas until we were outside. の意。

（8）「目を閉じるとすぐに，おぼろげながらテレパシーのようなイメージが現れ始めた。」
○ Hardly had S ＋過去分詞＋ when S' V'「S が…するや否や，S' が V' した」

（9）「私の母は私を大変愛してくれたし，さらに大切なことは，母は私を信頼してくれたのだ。」
what is more important は単独でも挿入的に用いられるが，本問では that 節につなげるために主語となる名詞節を形成する。

(10)「彼女が青ざめて見えたのは，自分のスマートフォンをどこかに置き忘れてしまったからだった。」
It was ～ that …の強調構文を用いて because S V を強調したもの。

【5】

解答

（1） red　（2） orange　（3） green　（4） blue　（5） Indigo
（6） violet　（7） white　（8） black〔red〕

解説

（1）「私の先生は私の愚かなミスを見つけた途端，怒った。」
○ see red「激怒する」闘牛の赤布が由来。
red を用いる他の表現としては，get〔go〕into the red（赤字になる）などがある。

（2）「この説明書はまったくちんぷんかんぷんだ。まさしく役立たずだよ。」
○ a squeezed orange「役に立たない人〔もの〕」搾られたオレンジ（のカス）から。

（3）「私の新しいポルシェのオープンカーは同僚を嫉妬でうらやましがらせるだろう。」
○ green with envy「嫉妬でうらやむ」嫉妬で顔色が青くなるほど，が由来。
green を用いる表現としては他に，He is *green* as grass.（彼は青二才だ。）などがある。

（4）「私はトムとのディナーを楽しんでいた。が，突然彼は別れを切り出した。」
○ out of the blue「唐突に」 *e.g.* bolt *out of the blue*（青天の霹靂）

（5）「インディゴは日本では藍色と呼ばれ，その深く神秘的な色合いのため尊重されてきた。」

（6）「エミリーは無口で，控え目で恥ずかしがり屋だ。」
○ as shy as a shrinking violet「しぼんでいくスミレのように恥ずかしがり屋で」
violet（スミレ）は謙遜の象徴。

（7）「もし僕が君なら，絶対的な真実を言うのではなく，悪気のない嘘をつくけど。」
○ a white lie「悪気のない嘘」
他に white を用いる表現としては，a white elephant（無用の長物）などがある。

（8）「その IT 企業は来年は黒字〔赤字〕に転じることが予想されている。」
○ the black「黒字」the red（赤字）は日本語と同じ。

【6】

解答

（1） **a**　（2） **a**　（3） **c**　（4） **d**　（5） **c**

解説

（1）「トーマスは皆が尊敬するような聡明な少年だ。」
such ～ as の as は（疑似）関係代名詞であるから Thomas is such a smart boy as everybody respects. と him を削除する。または，**b** のように as ではなく that を使うのも可。**c** ～ **d** はいわゆる so ～ that 構文で正しい（＝トーマスは聡明な少年なので誰もが彼を尊敬する）。

（2）「ドアを開けるや否や，白い子犬が入ってくるのが見えた。」
sooner は比較級であるから，when を than にするのが正しい。
○ As soon as S V, ～ ＝ The moment S V, ～ ＝ On …ing, ～

（3） To our much delight を Much to our delight〔To our great delight〕にする。
a，**b**「彼はビジネスで成功したため両親は大変喜んだ。」
c「私たちが大変喜んだことに，彼はビジネスで成功した。」
d「幸いなことに，彼はビジネスで成功した。」

（4）「どうして彼は怒ったの？」
How come he got angry? が正しい。How come S V?（どうして S は V か）は “How comes it that S V?” からきたと言われる。

（5） little は否定の副詞のため，文頭に置かれるとその後は倒置形になる。Little did she know what I was about to do. が正しい。
a「彼女は私がしようとしていることをまったく知らない。」
b「彼女は私が意図していることをまったく知らない。」
c「彼女は私がしようとしたことをまったくわからなかった。」
d「彼女は私がしたいことをまったくわからなかった。」

【1】（5）補助問題 解答
a warm winter → a *warmer* winter